

環境活動レポート

株式会社 原田

《ご挨拶》

株式会社 原田は 1901 年（明治 34 年）創業より 110 余年の長きにわたって皆様よりご愛顧をいただいております。和菓子の製造業者として発足してから、パン・洋菓子製造業に着手し、今日では、ご好評いただいておりますラスク「グーテ・デ・ロワ」を始めとする、総合洋菓子メーカーとして信頼される企業を目指しております。

この事業の拡大につれて、地球環境に与える影響も大きくなる事を受け止め、全社で次項の環境方針を掲げ、地球環境に優しい企業となるべく、2013 年 3 月にエコアクション 21 の認証を受けました。また、2014 年より、新たに稼動した高崎工場も管理対象とし、2016 年は直営店舗である中山道店、ららん藤岡店にも活動を拡大しています。

以下、本取り組みを「環境活動レポート」としてまとめました。多くの皆様より、ご高覧、ご指導、ご指摘をいただき、環境活動への更なる取り組み、意識向上に活かしていきたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社 原田
代表取締役社長
原田 義人

《目次》

環境方針	P-1
事業活動の規模	P-2
環境経営システムの実施体制	P-4
環境目標とその実績	P-5
代表者による全体評価と見直しの結果	P-10
環境関連法規制の順守	P-11

環境方針

〔基本理念〕

私たちの使命は、人々の暮らしに感動を呼び起こすことのできる高質にして価値のある商品を創造し、真心のこもったサービスとコミュニケーションを提供する経営の実現にあります。そして、それを千寿万世に続けるため、私たちは日々の企業活動において、地球環境の保全を配慮するよう努めます。

〔基本方針〕

- 私たちは、食品製造を主とする企業活動において、以下の方針で地球環境の保全に取り組みます。
1. 社内管理業務として、環境経営システムを構築し、それを継続的に運営します。
 2. 環境関連の法令や国際規約、業界のルールを順守します。
 3. 原材料、水、エネルギーの効率的使用に努め、CO₂の排出、排水、廃棄物の削減、再生、再利用に取り組みます。
 4. この環境方針を社内外に公表するとともに、社員の環境保全意識を高める教育を行います。

2012年 3月 1日
株式会社 原田
代表取締役社長
原田 義人

1.事業活動の規模

1. 事業所及び代表者名

株式会社 原田

代表取締役社長 原田 義人

2. 所在地

本社工場 〒370-1301 群馬県高崎市新町 1207

高崎工場 〒370-0854 群馬県高崎市下之城町 584-8

中山道店 〒370-1301 群馬県高崎市新町 2669

ららん藤岡店 〒375-0005 群馬県藤岡市中字広町 1131-8

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 原田 義人

環境管理責任者 : 常務取締役 原田 司

担当 : EA21 事務局 上田 孝之

TEL : 0274-40-3331

FAX : 0274-40-3341

4. 対象範囲

2013 年度 本社工場及びその敷地内の販売店舗を対象とする

2014 年度 高崎工場を実績把握の対象とする

2015 年度 高崎工場もエコアクション 21 認証を取得する

2016 年度 直営店舗（中山道店、ららん藤岡店）も対象とする（全組織・全活動）

5. レポートの対象期間

2017 年 2 月～2018 年 1 月

6. 事業の内容

洋菓子（主にラスク、焼菓子）の製造・販売

7. 事業規模

新町本社工場

活動規模	単位	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
総生産高	百万円	13,411	10,123	8,532	8,783
主要製品生産量	t (ラスク)	3,892	2,799	1,809	1,749
従業員数	人	350	293	298	290
延床面積	m ²	17,185	17,185	17,185	17,185

高崎工場

活動規模	単位	2014 年度	2015 年度	2015 年度	2017 年度
総生産高	百万円	5,836	7,414	9,048	9,325
主要製品生産量	t (ラスク)	1,317	1,873	2,544	2,752
従業員数	人	314	346	365	377
延床面積	m ²	35,316	35,316	35,316	35,316

* 2013 年度より高崎工場が稼働し、工場別総売上高の把握ができないため、総生産高に変更致しました。

* 人は新町本社工場・新本館・高崎工場の人数(短期雇用パート・派遣は含まず)、短時間パートは 0.5 人で集計しています。

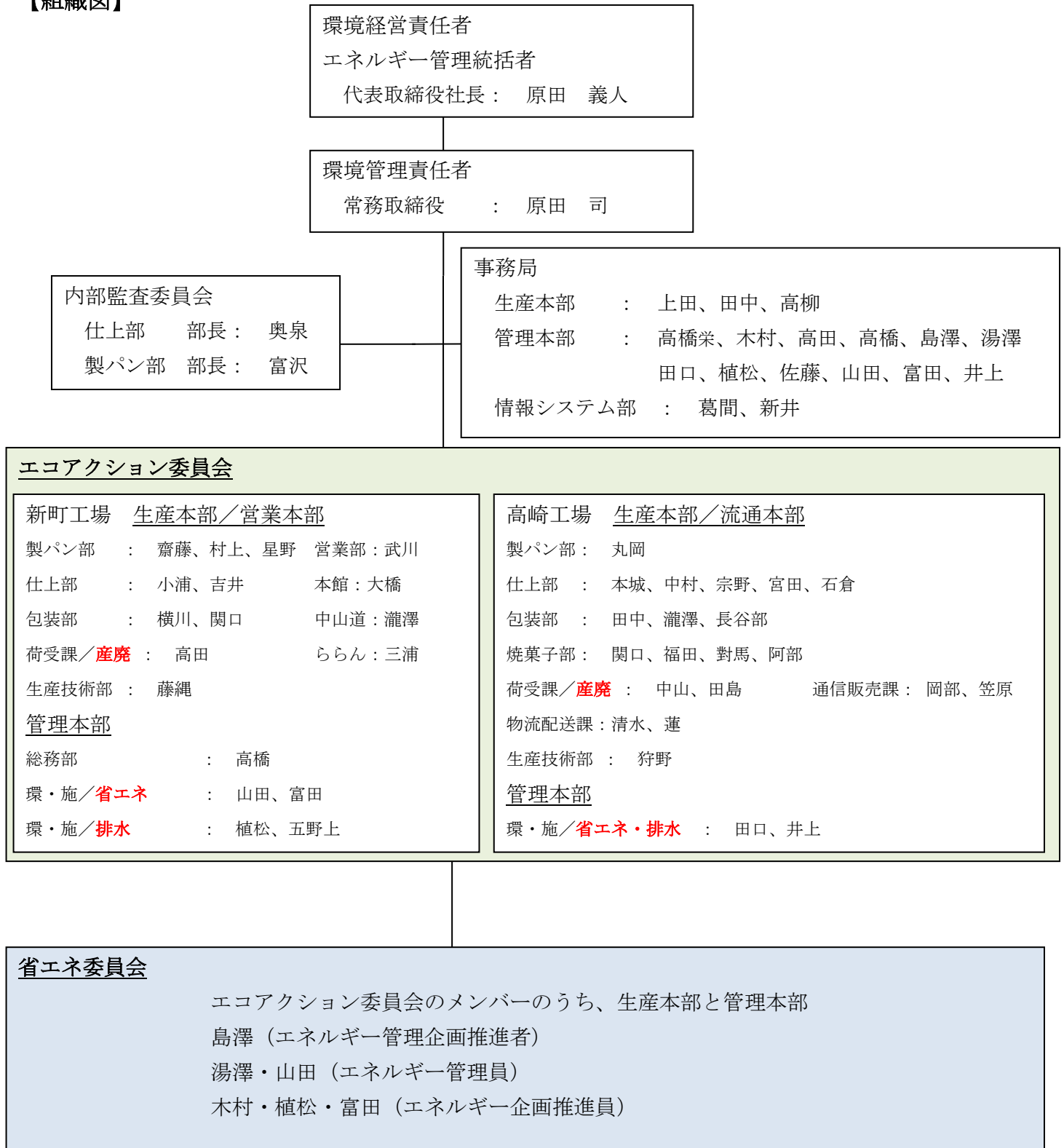
* 新町本社工場の建物の面積は、新町倉庫を含んでいます。

* 当社の年度期間は 2 月 1 日から翌年 1 月 31 日です。

* 2013 年度 5 月より、高崎工場が稼働したことにより、新町本社工場の生産量は減少しています。

2.環境経営システムの実施体制

【組織図】



【責任と役割】

環境経営責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針を策定 ・資源(人/物/金)の用意 ・評価、見直しの指示
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・システム運用の責任者 ・システム運用に関する提案、報告等に対する承認 ・代表者への定期報告
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・社内教育 ・活動記録 ・認証取得の準備 ・環境レポート作成
エコアクション委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・部門活動(PCDA 全般にわたる活動を行う) ・連絡会出席

3.環境目標とその実績

当社における 2017 年 2 月 1 日～2018 年 1 月 31 日の環境負荷実績を把握し、目標を下記の通り定め、活動を開始しました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績、環境活動計画実施事項、環境活動計画評価事項

新町本社工場

環境目標	基準値	今年度目標		3年後の目標	環境活動計画 実施事項	環境活動計画 評価事項
	2016 年度	2017 年度		2019 年		
	実績	目標	実績	目標		
①生産百万円 当たり二酸化 炭素排出量の 削減	(240.8kg /百万円) 2055ton / 8532 百万 円	2016 年度 に実績に 対して 1%削減→ (238.3 kg/百万 円)	前年比 5.56%削減 → (227.4 kg /百万円) 1998ton/8783 百万円	2016 年度 実績に対し て 2%削減	① 空調温度の適正 化・表示 ② 証明・PC 電源不要 時の OFF ③ エアコン清掃の実 施、 ④ 設備の確認点検。 ⑤ エコドライブ推進 ⑥ 社用車の点検・整 備 ⑦ 電力、ガソリン量 の集計 ⑧ 原因分析と削減方 法の検討	3 月に土曜日の稼働開 始、4 月の新店舗オープ ン、新商品のチョコレ ート商品の販売が好調 で 2017 年は生産が前 年より 2.5 億増加した。 2016 年 9 月より太陽光 電力の売電化を開始し て、土、日曜日の稼働 電力を賄えるようにな り、2017 年 11 月から 製パンのホイロ(発酵 機)夜間停止、外調機の インバータソフト変 更、チラーのスケール ウオッチャーの取付、

						水銀灯の LED 化により、電気もガスも使用量は減少し、目標は達成した。
②生産百万円 当たり廃棄物 の削減	(26.60kg /百万円) 227 ton / 8532 百万 円	2016 年度 実績に対 して 1%削減→ (26.33 kg /百万円)	前年比 8.83%削減→ (24.25 kg/百 万円) 213ton/8783 百万円	2016 年度実 績に対して 2%削減	① 分別ルールの徹 底	廃棄物の排出量は 227t から 213t に削減できた ため、目標は達成でき た。新商品のチョコレ ート商品販売好調によ り生産高に比し、パ ン・ラスクの焼成は 5% 削減して動植物性残渣 104t→93t に減少した。 2017 年 10 月よりイン ナーキャップとマスク を産廃に分別し、各部 署、紙の再利用等、廃 棄物を出さないように 努め、一般廃棄物は 33t →27t に減少した。
					②廃棄物置場の整備	
					③廃棄物排出量の集 計	
					④裏紙使用ルールの 徹底	
					⑤原因分析と削減方 法の検討	
③生産百万円 当たり水使用 量の削減	(2.077 m ³ /百万円) 17726 m ³ / 8532 百万 円	2016 年度 に実績に 対して 0.5%削減 →(2.066 m ³ / 百万円)	前年比 0.67% 削減→ (2.063 m ³ /百 万円) 18120 m ³ /8783 百万円	2016 年度実 績に対して 1%削減	①毎月のメーターの 確認(漏水防止)	2017年3月から土曜 日の工場見学を開 始。工場見学者が 33%増加(前年比 38,000名増)したた め、トイレ等の利用 が増え、水の使用量 は 2.2%増加したが、 生産高が 2.9%増加 したことにより目標 は達成できた。
					②節水表示	
					③設備の確認	
					④原因の分析と削減 方法の検討	
④グリーン の 購入推進	—	現状把握	○	購入品リス トによるグ リーン購入 の徹底	①購入品の調査	作業着(再生 PET 製品 50%)を購入。 次年度も、グリー ン購入を継続す る。
					②グリーン購入品の選 定	
					③グリーン購入品の決 定	
⑤本業に関す る目標	—	包装形状 の検討	△	包装材の軽 量化とリサ イクル化	①トレ・フィルムの軽量化	フィルム薄化、軽 量化の検討を行っ た。
					②包装形状の検討	

						ギフト商品の性質上、現状、再生品の利用は難しい。次年度は、ギフト以外の商品の簡易包装化を検討中。
--	--	--	--	--	--	--

高崎工場

環境目標	基準値	今年度目標		3年後の目標	環境活動計画 実施事項	環境活動計画 評価事項
	2016年度	2017年度		2019年		
	実績	目標	実績	目標		
①生産百万円当たり二酸化炭素排出量の削減	(372.6kg/百万円) 3372ton/ 9048百万円	2016年度に実績に対して1%削減→ (368.8kg/百万円)	前年比0.34%削減→ (371.3kg/百万円) 3463ton/9325百万円	2016年度実績に対して2%削減	①空調温度の適正化・表示	9月からの新商品の販売好調により、トンネルオープンの使用時間が増加し、電気もガスも使用量は増加して、目標は達成できなかった。 2017年6月はデマンド警報設置、エアコンの日常点検強化、夏冬に食堂のブラインドカーテンを閉めて熱ロスを削減、生産現場の清掃時間短縮等、電気使用量の削減に努めた。
					②証明・PC電源不要時のOFF	
					③エアコン清掃の実施、	
					④設備の確認点検。	
					⑤エコドライブ推進	
					⑥社用車の点検・整備	
					⑦電力、ガソリン量の集計	
⑧原因分析と削減方法の検討						
②生産百万円当たり廃棄物の削減	(44.31kg/百万円) 401ton/ 9048百万円	2016年度に実績に対して1%削減→ (43.86kg/百万円)	前年比3.56%→ (45.89kg/百万円) 428ton/9325百万円	2016年度実績に対して2%削減	①分別ルールの徹底	生産量の増加に伴い、廃棄物の排出量は27t増加した。主な増減要因としては、動植物性残渣はチョコの配管清掃を強化等により34t増加。廃プラは手袋、カウンタークロスを一般廃から分別したことにより8t増加した。一般廃は前述し
					②廃棄物置場の整備	
					③廃棄物排出量の集計	
					④裏紙使用ルールの徹底	
					⑤原因分析と削減方法の検討	

						た分別と焼菓子小麦粉袋の再利用等で12t削減できた。
③生産百万円当たり水使用量の削減	(3.402 m ³ /百万円) 30783 m ³ / 9048 百万円	2016 年度に実績に対して0.5%削減→(3.384 m ³ /百万円)	前年比 7.52% →(3.658 m ³ /百万円) 34118 m ³ /9325 百万円	2016 年度実績に対して1%削減	①毎月のメーターの確認(漏水防止)	生産の増加、繁忙期の作業人員の増加、2・3月のボイラートラブルにより使用量が増加した。
					②節水表示	
					③設備の確認	
					④原因の分析と削減方法の検討	
④グリーン購入推進	—	現状把握	○	購入品リストによるグリーン購入の徹底	①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定 ③グリーン購入品の決定	作業着(再生PET製品50%)を購入。次年度も、グリーン購入を継続する。
⑤本業に関する目標	—	包装形状の検討	△	包装材の軽量化とリサイクル化	①トレイ・フィルムの軽量化 ②包装形状の検討	フィルム薄化、軽量化の検討を行った。ギフト商品の性質上、現状、再生品の利用は難しい。次年度は、ギフト以外の商品の簡易包装化を検討中。

工場合計

目標	基準値	今年度目標		3年後の目標	環境活動計画 実施事項
	2016 年度	2017 年度		2019 年	
	実績	目標	実績	目標	
①生産百万円当たり二酸化炭素排出量の削減	(308.7 kg 百万円) 5427 ton / 17580 百万円	2016 年度に実績に対して1%削減→(305.6 kg/百万円)	前年比 2.33% 削減→(301.5 kg/百万円) 5461ton / 18108 百万円	2016 年度実績に対して2%削減	①空調温度の適正化・表示
					②証明・PC 電源不要時の OFF
					③エアコン清掃の実施
					④設備の確認点検
					⑤エコドライブ推進
					⑥社用車の点検・整備
					⑦電力、ガソリン量の集計
					⑧原因分析と削減方法の検討

②生産百万円 当たり廃棄物 の削減	(35.72 kg/ 百万円)	2016 年度 に実績に 対して 1%削減→ (35.36 kg/ 百万円)	前年比 0.92% 削減→ (35.39 kg/ 百万円) 641ton / 18108 百万 円	2016 年度実 績に対して 2%削減	①分別ルールの徹底
	628 ton				②廃棄物置場の整備
	/				③廃棄物排出量の集計
	17580 百万 円				④裏紙使用ルールの徹底
	/				⑤原因分析と削減方法の検討
17537 百万 円					
③生産百万円 当たり水使用 量の削減	(2.759 m ³ /百万円)	2016 年度 に実績に 対して 0.5%削減 → (2.89 m ³ / 百万円)	前年比 4.53 % → (2.884 m ³ / 百万円) 52238 m ³ /18108 百万 円	2016 年度実 績に対して 1%削減	①毎月のメーターの確認(漏水防止)
	48509 m ³				②節水表示
	/				③設備の確認
	17580 百万 円				④原因の分析と削減方法の検討

* 実績は、2015年2月～2016年1月の1年間のデータです。

* 電気の使用量からCO₂の排出を算出した係数は、0.375(kg-CO₂/kWh)です。

これは、2011年省エネルギー法の中長期計画で使用している数値です。

2. 社内教育等の実施状況

2012年7月 1日：社内報にて、エコアクション特集を載せて、社内教育を図りました。

2014年3月 1日：弊社ホームページにて環境活動レポートを公表し、食品リサイクルの取組を公開致しました。

2014年4月 1日：社員手帳に環境方針を載せて、全社員に周知徹底を図りました。

2015年1月 27日：eco講習会を実施して、省エネや環境負荷について従業員の意識を向上させました。

2015年7月 1日：社内報にて、ぐんま緑の県民基金へ寄付を周知致しました。

2015年8月 1日：社内報にて、高崎工場 太陽光パネル設置を周知致しました。

2016年3月 13日：エコアクション21委員会にて群馬県環境基本計画の概要を説明しました。

2017年6月 26日：エコアクション21委員会にて経済産業省エネルギー中長期計画策定を説明しました。

2017年12月 4日：経済産業省エネルギー管理指定工場 現地調査について説明しました。

3. 食品残渣のリサイクル状況

食品残渣のリサイクルについては、農水省への毎年度の定期報告にも載せていますが、コーヒーゼリー製造時のコーヒーの出しガラ約 10 トンのリユースができていないため、平成 26 年度は 96.7%となりました。昨年度より、コーヒーの出しガラを肥料化して、今年は約 12 トンのリユースができたため、今回は、97.8%となりました。

一方、店舗からの返品による完成品の廃棄は、発生しておらず、生産販売会社として誇りとするところです。農水省定期報告値は、以下の通りです。

	食品廃棄物等の発生量 (t)	食品循環資源の再生利用の実施量 (t)	再生利用率
平成 25 年度	861.9	846.2	98.2%
平成 26 年度	852.7	824.5	96.7%
平成 27 年度	658.6	643.9	97.8%
平成 28 年度	737.5	721.1	97.8%

4. 代表者による全体評価と見直しの結果

E A21 の取り組みを始めて 6 年目となり、2013 年 5 月に稼働した高崎工場も含めて、E A21 活動に取り組みました。生産高の増加に伴い、高崎工場の稼働率の増加や繁忙期の人員増等により水の使用量は削減することができませんでしたが、CO₂ 排出量が目標達成、廃棄物の排出量は目標値に近い数字となりました。

昨年 12 月に行われた経済産業省現地調査においては、エコアクション 21 の組織的な省エネへの取り組み及び社員一人一人の省エネ意識が高く評価されました。

社会経済システムの大転換が迫る中、経営上の様々な課題やチャンスを検討して企業経営を行うことと、環境経営を推進することにより、生産効率向上、エアコン使用等の見直し、LED 照明設置等、より一層の省エネルギー活動に取り組んでいきます。

2018 年は、以下の実践策を推進していきたいと考えています。

《次年度の取り組み内容》

- ① 照明設備の LED 化推進
- ② 一般廃棄物の分別管理の徹底
- ③ 水使用量の見直し

5.環境関連法規制の順守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	順守状況
騒音規制法	順法
振動規制法	順法
悪臭防止法	順法
地球温暖化対策の推進に関する法律	順法
エネルギーの合理化に関する法律	順法
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律	順法
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律	順法
下水道法	順法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	順法
労働安全衛生法	順法
食品衛生法	順法
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	順法
消防法	順法
工場立地法	順法
毒物及び劇物取締法	順法
フロンガス排出抑制法	順法
電波法	順法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2017年10月15日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

3. 行政への定期報告

- ・地球温暖化対策の推進に関する法律 7月31日 報告済
- ・エネルギーの合理化に関する法律 7月31日 報告済
- ・食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律 6月30日 報告済
- ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書 5月31日 報告済
- ・容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律 4月30日 報告済